

## 女子学生の乳房形態について (予報)

昭和29年10月8日受付

信州大学医学部第二解剖学教室 (主任 鈴木 誠教授)

栗 岩 純

## On the Form of the Breast of Girl student

Makoto KURIWA

Department of Anatomy, Faculty of Medicine, Shinshu University

(Director: M. Suzuki)

Eighty five girl students (between 18 and 20 years of age) of Shinshu University are the object. Secondary mamma (according to the classification of Stratz) occurs in about 80% of girls and others have primary one. None of them shows less maturation. Most of them belong, based on my new criteria of classification, to semispherical mamma, mamma plana and bell shaped, and only few show mamma descendens and funnel shaped. About 80% have mature nipples and others are incomplete; abnormal form is rare. Diameter of nipple and areola is 9~10 mm and 30~32 mm respectively. The form of the areola and the form of the cross section of nipple are ellipse with transversed major axis. Accessory mamma is not found.

## I. 緒 言

女性の二次的性徴としての乳房形態に就いて得た成績を此処に発表しておきたい。

将来、例数の追加と共に、年令別、性的年令別による追求と同時に、他の身体諸部の計測値をも加えて、所謂女性の二次的性徴と体質との関聯を明らかにしたいと考える。なお、本調査に当つて協力を惜まれなかつた学生各位並びに実施に際して終始御尽力下さつた二木つえ氏に深謝する。

## II. 調査材料

信州大学教育学部松本分校在学の女子学生85名を調査対象としてえらんだ。その大部分は一年生で年令分布は第1表の通りである。

第1表 年令分布

満18才	19	20	計
60名	22	3	85名

例数が少ないので、18~28才に亘る各年令を一括して一つの年令階級とみなした。なお調査は昭和28年5~6月に実施した。

## III. 調査方法

## [A] 発育の程度 (第1図)

女子の所謂乳房形態の変化はStratzによれば4期に區別される。一般にも之が用いられているので、筆者もこれにしたがつた。<sup>①</sup>

第1期: I型 (小児型)

小児型に見られるもので、皿状の乳輪の中央部に乳頭だけがはつきりと突出しているもの。

## 第二期: II型

乳輪が膨れ出して半球状に盛り上つている時期で、乳輪と乳頭とが共に小丘状をなす。

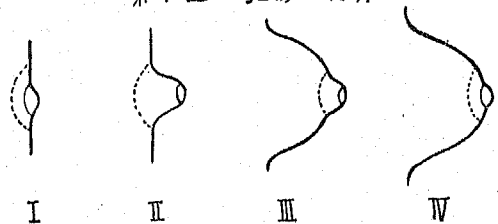
## 第三期: III型 (第1次乳房)

乳輪の周囲の部分も膨出するために、乳房全体が著しく膨隆する。然し、乳輪部は依然として周囲の部分より突出している。これは成熟一步前の段階であるが、或る人種においてはこの状態で発育が停止する。

## 第四期: IV型 (第2次乳房)

乳腺の発育著しく、ために乳輪は再び下降して皿状となり、その上に乳頭が突出している。

第1図 乳房の発育



## [B] 乳房形態 (第2図)

女性乳房の形態は、個人的、年令的の差異が大きく、又人種的にもそれが認められるから、<sup>②</sup>分類の規準も種々である。Martinは4型に分け、一般も之にしたがつている様であるが、本調査に当つては、それ

だけでは充分でなかつたので、筆者はこれを参酌して次の5型に区分した。

(但しこの分類は第一、二次乳房に就いてである。)

A型: (漏斗状乳房)

余り發育の良くないもので、高径・長径<sup>①</sup>ともに短く、さらに乳房全体の丸味を欠き、あたかも漏斗の如き外觀をなすもの。

B型: (皿状乳房)

乳房の高径は低く、反対に長径の方が大きく見える形のもの、

C型: (半球状乳房)

高径と長径とが略々等しい様な感を与えるもの、

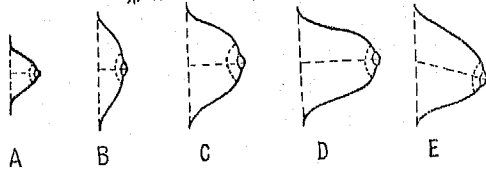
D型: (鐘状乳房)

高径が長径に優る様な感を与えるもの。

E型: (下垂状乳房)

D型に属するものに多く、乳頭と基底中心とを結ぶ線が幾分下を向いているもの。

第2図 乳房の形態



[C] 乳頭形態 (第3図)

乳頭形態の分類については、準拠すべき文献に接し得なかつたので、筆者は次の4型を区分した。

a型: (完全乳頭)

完全な乳頭を備えるもの。

b型: (蕾状乳頭)

所謂第一次乳房の型に見られる乳頭で、膨隆した乳輪上に、拳上した乳頭がのつていて、両者は一塊をなし、乳頭の区割が明瞭を欠くもの。

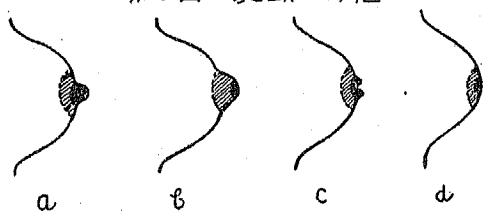
c型: (陥没乳頭)

乳頭の一部乃至大部分が乳輪中に陥没しているもの。(軽度のもので、触診によりて復元可能のものは除外した。)

d型: (平坦乳頭)

乳頭、乳輪とも平坦で、乳房面より突隆せず、両者の区別は僅かに色調によつてなされるもの。

第3図 乳頭の形態



[D] 計測

1. 乳輪径
2. 乳頭基部径

何れもマルチンの滑動両脚器を使用した。

IV. 調査成績

(1) 發育の程度 (第2表)

第2表 發育度 (数字は例数( )内は%)

型	I	II	III	IV	計
右側	0	0	13 (15.29)	72 (84.71)	85
左側	0	0	19 (22.35)	66 (77.65)	85

大部分は成熟型であるIV型であり、III型(第一次乳房)にとどまるものは2割内外にすぎない。それ以下の發育度を示すものは皆無である。なお、この成績のみでは左側の發育が右側におとる様である。

(2) 乳房形態 (第3表)

第3表 乳房形態

型	A	B	C	D	E	計
右側	5 (5.88)	27 (31.76)	32 (37.64)	17 (20.0)	4 (4.70)	85
左側	5 (5.88)	27 (31.76)	32 (37.64)	16 (18.82)	5 (5.83)	85

C型(半球状)が最も多く、次でB型(皿状)、D型(鐘状)の順で、A型(漏斗状)、E(下垂状)のものは急激に頻度を減ずる。左右異型は、僅か3例(D~E間)のみであつた。

(3) 乳頭形態 (第4表)

第4表 乳頭形態

右	左				計
	a型	b型	c型	d型	
a型	54 (74.11)	5	4	0	63
b型	0	13 (15.29)	0	0	13
c型	1	1	4 (7.06)	0	6
d型	0	0	0	3 (3.53)	3
計	55 (64.70)	19 (22.35)	8 (9.41)	3 (3.53)	85

(数字は例数( )内%)

完全な形態を備えるものが大多数で、所謂蕾状乳頭と呼ばれる型のものがこれに次いでいる。左右異型は11例であつた。その中のおもなるものは9例で、即ち右側で完全形態を示しながら、左側に於て蕾状をなす

第5表 乳房形態と乳頭形態との関係

右側						左側							
發育良くなる ↓	乳頭型	a	b	c	d	計	發育良くなる ↓	乳頭型	a	b	c	d	計
	A	3	1	0	1	5		A	3	1	0	1	5
B	19	5	3	0	27	B	16	7	4	0	27		
C	23	6	2	1	32	C	19	9	3	1	32		
D	14	1	1	1	17	D	13	1	1	1	16		
E	4	0	0	0	4	E	4	1	0	0	5		
計	63	13	6	3	85	計	55	19	8	3	85		

ものが5例, 陥没型を示すもの4例を数える。このことは發育度に見られた結果と共に, 左側に於ける変異の多いことを意味しているようである。

(4) 乳房形態と乳頭形態との関係

乳房形態と乳頭形態との関係を見るに, 両者の發育程度は, 大体, 相関聯している様に思はれるが, その関係を表示すると第5表の通りである。

(5) 副乳の有無

軀幹腹側面に於ては, 副乳を有するものはなかつた。

(6) 計測成績 (第6, 7表)

第6表 乳輪 径

		N	$\bar{x}$	Sx	$u^2$
横 径	右	85	31.33 mm	2060	24.52
	左	85	31.96	2071	24.65
縦 径	右	85	30.38	2550	30.36
	左	85	30.46	2071	24.73

第7表 乳頭 基部

		N	$\bar{x}$	Sx	$u^2$
横 径	右	65	10.23 mm	144	2.25
	左	58	10.29	136	2.39
縦 径	右	65	9.52	112	1.75
	左	58	9.71	132	2.32

各計測値から, 左右の相違を見るに, 何れの平均値に於ても, 左の方が僅かにまさっているが, 有意差はない。また乳輪, 乳頭基部径ともに横径の方が縦径よりも大きい。平均値の差の検定を試みるに乳輪では右で  $F_0=1.75$ , 左で  $F_0=3.82$ , で差を認めがたいが, これは  $u^2$  (変異) が大きいためと思われる。乳頭基部

径では右で  $F_0=4.35^*$ , 左で  $F_0=8.13^{**}$  で差を認めた。この結果から乳輪及び乳頭の基部径は円ではなく, 長軸を横にした楕円形をなすものと考えられる。

V. 総括

信大教育学部女子学生85名の乳房形態の調査の結果を總括すると次の通りである,

1) 18~20才に亘る各年令を一括して取扱つた。

2) 發育程度

約8割が第二次乳房で, 残りが第一次乳房の段階である。それ以下のものはなかつた。

3) 乳房形態

半球状, 皿状及び鐘状の三型が大部分を占め, 下垂状及び漏斗状は少数である。

4) 乳頭形態

發育未完と思はれるものが2割内外あるが, 異常と考えられるものは少ない。

完全な乳頭に於ける基部径は大略9~10mmの平均値を有し, 左右差はないが, 横径と縦径間には有意差を認める。即ち基部横断面を假想すれば長軸を横にした楕円形をなす。

5) 乳輪形態

乳輪の直径は30~32mm内外の平均値を有し, 左右差はないが, 横, 縦径間には差を認める。即ち横径が大なるため, 乳輪形態は横に長い楕円形をなす。

6) 乳房形態と乳頭形態との関係

両者の發育は互に關聯があるらしい。

7) 左右の相違について

所謂乳房の發育程度及び乳頭形態から見た成績では, 左側に於て末發育乃至変異の頻度が多い。乳輪, 乳頭基部径とも左右差はない。

8) 副乳の有無

軀幹腹側面に於ける副乳はなかつた。

脚 註

①②Stratz, C.H., System der Schönheit der weiblichen Körpers, 1922, Martin, B., Lehrbuch der Anthropologie, 1928, v. Eickstedt, E. F., Rassenkunde und Rassengeschichte der Menschheit, 1942

藤田恒太郎 生体観察 1950, 安藤画一 要約婦人科学總論 1951, 金関丈夫・忽那将愛 生体学概論 人類学先史学講座第1巻 1938, 丸山敏之 熊本県人の乳房について 解剖学雑誌(会), Vol. 28, No. 5, 1953

③ 〇長径二基底部直径, 高径二基底部中心と乳頭基部との間の距離。 〇長径或は高径と称するのは計測によつたものではない。 Stratz によれば何れの型でも常に長径は高径よりも大であると云ふ。